

修士論文（要旨）  
2021年1月

子どもからの身体接触要求に対する  
母親の否定的感情における心理学的要因の検討

指導 山口 創 教授

心理学研究科  
健康心理学専攻  
218J4053  
草川 理那

Master's Thesis (Abstract)  
January 2021

The Psychological Factors in Mothers' Negative Emotions towards Physical Contact  
Requests from Children

Rina Kusagawa  
218J4053  
Master's Program in Health Psychology  
Graduate School of Psychology  
J. F. Oberlin University  
Thesis Supervisor: Hajime Yamaguchi

## 目次

第1章 母子間の身体接触に関する背景と知見 P. 1～	
1.1 子育てをめぐる日本の現状	1
1.2 母子相互交渉における身体接触の意義	1
1.3 育児期の女性における心身の不調と母子間の身体接触について	2
第2章 育児期の母親に関連する心理的指標に関する知見 P. 2～	
2.1 育児不安	2
2.2 愛着－養育システム	2
2.3 愛着スタイル	3
第3章 目的	3
第4章 仮説	4
第5章 方法 P. 5～	
5.1 対象者	5
5.2 使用尺度	5
5.3 倫理的配慮	6
5.4 分析方法	6
第6章 結果 P. 7～	
6.1 方法と調査対象者	7
6.2 一日当たりの子どもの身体接触時間	8
6.3 被接触好悪感尺度	8
6.3.1 数量化	8
6.3.2 被接触好悪感の分類	8
6.4 育児不安尺度	8
6.4.1 数量化	8
6.4.2 育児不安の分類	9
6.5 愛着－養育バランス尺度	9
6.5.1 数量化	9
6.6 愛着スタイル尺度 ECR-GO	10
6.6.1 数量化	10
6.6.2 愛着スタイルの分類	10
6.7 各尺度の相関	10
6.8 子どもとの身体接触時間（分／日）と各尺度との関連	13
6.8.1 子どもとの身体接触時間（分／日）と被接触好悪感	13
6.8.2 子どもとの身体接触時間（分／日）と育児不安	13
6.8.3 子どもとの身体接触時間（分／日）と愛着－養育バランス	13
6.8.4 子どもとの身体接触時間（分／日）と愛着スタイル	14
6.8.5 子どもとの身体接触時間（分／日）と子どもの年齢	15
6.8.6 子どもとの身体接触時間（分／日）と就業の有無	16
6.9 子どもとの被接触好悪感と各尺度との関連	17
6.9.1 子どもとの被接触好悪感と育児不安	17
6.9.2 被接触好悪感と愛着－養育バランス	17
6.9.3 被接触好悪感と愛着スタイル	18
第7章 考察 P. 19～	

7.1 仮説の検討	19
7.1.1 仮説 1 について	19
7.1.2 仮説 2 について	20
7.1.3 仮説 3 について	20
7.1.4 仮説 4 について	20
7.1.5 仮説 5 について	21
7.1.6 仮説 6 について	21
7.2 子どもとの身体接触時間について	21
7.1.1 子どもとの身体接触時間と子どもの年齢および就業の有無について	21
7.1.2 子どもとの身体接触少群について	21
第 8 章 研究の限界と今後の課題 P. 22～	
第 9 章 結語 P. 23～	

引用文献

## 子育てをめぐる現状

近年、養育者による子どもへの虐待がさらに深刻な問題となっている。虐待への対策は国を挙げて取り組まれており、虐待への認知も高まったことは明らかであるが、2015年に初めて10万件を超え、最新のデータである2018年度では159,850件（速報値）で過去最高に至り、統計を取り始めた1990年代から27年連続で増加している。このように虐待に関する相談件数は増加の一途をたどっている。さらに、虐待に関する調査によると、現在まで一貫して実母による虐待が全体の6割を占めているとされる。特に母親は子どもと長時間一緒にいることが多く、これらのことから、育児期の母親が、多かれ少なかれ様々な問題や葛藤を抱えながら日々育児に取り組んでいるということが浮き彫りになっていると考えていだろう。

このように虐待が日々取りざたされている昨今、虐待に至らないまでもそのようなリスクがある母親がどの程度存在するのであろうか。虐待の相談件数の現状から考えるに、その数は相当数いると考えられるのではないだろうか。実際、各市区町村の保健センター等では、毎日様々な育児相談を受け付けており、継続支援が行われている母親も多い。また、2001年から行われている国民運動計画である「健やか親子21」において、重点課題として「育てにくさ」を感じる親に寄り添う支援が掲げられている。このように、虐待に至らないまでもそのようなリスクを抱える母親たちへの育児支援は早急かつ重大な課題であるといえる。このような母親たちに着目することは、母親の子どもに対する不適切な関わりの早期発見につながり、母親の精神的健康、子どもの発達や安定した母子相互関係の形成にとって重要な視点であると考えられる。

## 母子相互交渉における身体接触について

Winnicott,D.W. (1965) は Good-enough mother (ほど良い母親) は、子どもとの基本的信頼感を形成するため、適度なスキンシップと「抱っこ」を行い、それらを通じて子供の創造性や積極性を発達させる遊びを巧みに生活に取り込んでいくとしている。また、Anisfeld,E.ら(1990)の研究では、抱っこ紐で育てられた新生児グループはアタッチメントスタイルが安定型となりやすいとしている。日本における研究でも、母子間の身体接触は、母子相互の親密化を促進するうえで大きな役割を果たす(川名, 2008)とされており、その効果は、母親の対児感情を高め不安を低下させ、母子相互のコミュニケーションという意味合いを持っているとされる。また、子には精神的安定をもたらす(坂口ら, 2006)ともされている。麻生・岩立(2015)の研究では、母親の抑うつは授乳と寝かしつけ場面の触ると撫でる等のタッチを少なくし、また、母親関連育児ストレスは、なきと寝かしつけ場面の抱きかかえ等を少なくすると報告されている。子どもにおいては、チック・暴力・摂食障害等の様々な心の問題を抱えた子ども達に共通することとして、圧倒的に抱っこが不足している(渡辺, 2005)とされる。

このように、母親と子どもの身体接触の意義や効果及び母親の精神的健康は、母子相互交渉において重要な意味を持つと考えられる。

## 目的

本研究では、母子相互交渉における身体接触について、子どもに対する母親の身体接触回避の要因となる心理的要因を検討し、育児期の母親の不適切な養育状況の早期発見と子育て支援につなげるとともに、身体接触の重要性を考える。また、母子間の身体接触についての研究を集積し補強する研究の一つとすることを目的とする。なお、今回は非臨床群を対象とすることにより、より多様な人々の不適切な関わり方のリスク要因を検討する。心理的要因は、育児不安、養育システムの発達、母親の愛着スタイルを取り上げ検討を行う。

- 仮説 1 育児不安尺度の「育児不安」得点が高いとき、子どもとの身体接触時間が有意に少なくなる
- 仮説 2 育児不安尺度の「育児不安」得点が高いとき、被接触好感が有意に低くなる
- 仮説 3 愛着－養育バランス尺度の「愛着」は子どもとの身体接触時間に影響がある
- 仮説 4 愛着－養育バランス尺度の「愛着」は被接触好悪感に影響がある
- 仮説 5 愛着スタイルと子どもとの身体接触時間について、安定型ととらわれ型は、拒絶型と恐れ型よりも子どもとの身体接触時間が有意に多くなる。
- 仮説 6 愛着スタイルと子どもとの被接触好悪感について、安定型ととらわれ型は、拒絶型と恐れ型よりも子どもとの被接触好感が有意に高くなる。

## 方法

### 1. 対象者・調査方法

1歳半から6歳までの健児群未就学児を持ち、精神科既往歴の無い非臨床群及び満期産（正期産）かつ周産期の異常が無い母親とした。本研究は、Web アンケートによる調査を用いた。調査対象地域は日本国内、調査期間は2020年11月～12月であった。

### 2. 質問紙・使用尺度

#### ① フェイスシート

子どもの状況、母親の状況、一日当たり子どもとの身体接触時間

#### ② 被接触好悪感尺度（小野塚ら，2019）

#### ③ 育児不安尺度（吉田ら，2013）

1歳半児用，2歳児用，3歳児用，4歳児用

#### ④ 愛着－養育バランス尺度（武田ら，2012）

#### ⑤ 愛着スタイル尺度 ECR-GO（中尾・加藤，2004）

### 3. データ分析

調査の結果、合計101人の回答が得られた。そのうち回答者本人および子どもに精神科既往歴が無いものを対象とした研究の為、精神科既往歴ありとした回答者を除外し85人を分析対象とした（有効回答率84%）。一日当たり子どもとの身体接触時間（以下「身体接触時間」とする。）と各尺度との関連を検討するため、

身体接触時間と育児不安高群、育児不安低群との間に有意な差があるか、身体接触時間に愛着－養育バランス尺度の「愛着」が影響しているか、身体接触時間と4分類の愛着スタイルとの間に有意な差があるかについてそれぞれ分析を行った。また、子どもの年齢および就業の有無と身体接触時間について有意な差があるかそれぞれ分析を行った。子どもとの被接触好悪感とこれ以外の尺度との関連を検討するため、被接触好悪感尺度の得点と育児不安高群、育児不安低群との間に有意な差があるか、被接触好悪感尺度得点に愛着－養育バランス尺度の「愛着」が影響しているか、被接触好悪感尺度得点と4分類の愛着スタイルとの間に有意な差があるかについてそれぞれ分析を行った。

## 結果と考察

一日当たりの子どもとの身体接触時間（以下「身体接触時間」とする。）と各尺度、子どもとの被接触好悪感と各尺度との関連を検討したところ、育児不安尺度の「育児不安」得点と身体接触時間との分析では、年齢によって一貫した結果が得られず、また、1歳半児以外の年齢児の育児不安高群で身体接触時間が多くなるという結果が得られたため、仮説1は支持されなかった。また、「育児不安得点」と被接触好悪感との分析では、1歳半児と2歳児で育児不安高群の被接触好感が低いという結果が得られたため、仮説2は一部支持された。次に、身体接触時間に愛着－養育バランス尺度の「愛着」が影響しているという検討では、結果が得られなかったため、仮説3は支持されなかった。また、被接触好悪感尺度得点と愛着－養育バランス尺度の「感性：愛着」「親密性：愛着」に弱い正の相関がみられたため、仮説4は一部支持された。今回の仮説において、前提条件として、不安感の強さと「愛着」の促進に関連があるとされているため、「愛着」が子どもとの身体接触時間と被接触好悪感に影響を与え、また、被接触好悪感が高い時「愛着」が促進されると予測していたため、得られた結果としては、身体接触時間との関連は確認されなかったが、「愛着」の特に「感性」（自分への関心）と「親密性」（自分に対する支えの欲求）が高いという結果は注目に値すると考える。身体接触時間と4分類の愛着スタイルにおいては、安定型ととらわれ型は、拒絶型と恐れ型よりも子どもとの身体接触時間が多くなるという結果が得られたため、仮説5は支持された。被接触好悪感尺度得点と4分類の愛着スタイルにおいては、安定型ととらわれ型が拒絶型と恐れ型より被接触好感が高くなるという結果が得られたため、仮説6は支持された。身体接触時間と子どもの年齢の検討では、1歳と3歳で他の年齢との間に有意な差があった。身体接触時間と就業の有無には有意な差はみられなかった。

## 課題とまとめ

今回、サンプルサイズが極端に少なくなった指標があった。分析には、サンプルサイズに影響を受けない効果量も使用した検討を行ったが、適切なサンプルサイズにて統計解析の精度を向上させることが今後の課題として挙げられる。また、下位尺度との関連のより詳細な分析、指標の焦点化を行うことも課題として挙げられる。加えて、今後、身体接触に否定的感情をもつ母親の心理的要因をさらに検討・分析し、どのような身体的アプローチ（セルフ・相互問わず）を行えば子どもとの身体接触に肯定的変化

がみられるかを心理指標・生理指標を用いて検証していくことが必要である。

母子間の身体接触における母子相互作用促進への援助や、愛着形成、母親の心理状態、育児不安の緩和、育児支援への活用についての研究は行われつつあるが、まだ少なく、今後さらに知見を重ねていく必要がある。本研究が育児期における母親の子どもとの身体接触についての知見を重ねる一助となることを期待する。



## 引用文献

- Anisfeld, E., Casper, V., & Nozyce, M. (1990) . Does infant carrying promote attachment? An experimental study of the effects of increased physical contact on the development of attachment. *Child Development*, 61, 1617-1627.
- Andrejs Ozolins, Karoline Sandberg. (2009) "Development of a Multifactor Scale Measuring the Psychological Dimensions of Touch Avoidance". *Tarptautinis psihologijos žurnalas:biopsichosocialinis požiūris* 3:33-56.
- Brennan, K. A., Clark, C. L., & Shaver, P. R. (1998a) . Self-report measurement of adult attachment: an integrative overview. In J. A. Simpson & W. S. Rholes (Eds.) , *Attachment theory and close relationships* (pp. 46-76) . NY: Guilford Press.
- Bifulco, A., Lillie, A., Ball, B., & Moran, P. (1998) . *Attachment Style Interview (ASI) : Training Manual*. London: Royal Holloway.
- Cohn, J.F. & Tronick, E.Z. (1989) . Specificity of infants' response to mothers' affective behavior. *Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry*, 28, 242-248.
- Johansson, C. (2013) . Views on and perceptions of experiences of touch avoidance: An exploratory study. *Current Psychology: A Journal for Diverse Perspectives on Diverse Psychological Issues*, 32 (1) , 44-59.
- Koichi Negayama, Jonathan T. Delafield-Butt, Keiko Momose, Konomi Ishijima, Noriko Kawahara, Erin J. Lux, Andrew Murphy, Konstantinos Kaliarntas. (2015) . Embodied intersubjective engagement in mother-infant tactile communication: a cross-cultural study of Japanese and Scottish mother-infant behaviors during infant pick-up. *Front Psychol.* 6, 66.
- Moore, S.R., McEwen, L.M., Quirt, J., Morin, A., Mah, S.M., Barr, R.G., Boyce, W.T., Kobor, M.S. (2017) Epigenetic correlates of neonatal contact in humans. *Dev Psychopathol*, 29 (5) , 1517-1538.
- Malphurs, J. E., Raag, T., Field, T., Pickens, J., & Pela'ez - Nogueras. (1996) . Touch by intrusive and withdrawn mother with depressive symptoms. *Early Development and Parenting*, 5, 111-115.
- Prior, V., & Glaser, D. (2006) . *Child and adolescent mental health series. Understanding attachment and attachment disorders: Theory, evidence and practice*. London, England: Jessica Kingsley Publishers.
- Strathearn, L., Fonagy, P., Amico, J., & Montague, P. R. (2009) Adult attachment predicts maternal brain and oxytocin response to infant cues. *Neuropsychopharmacology: Official Publication of the American College of Neuropsychopharmacology*, 34, 2655-2666.
- Tronick, E. Z. (1995) . Touch in Mother-infant interaction. In T.Field (Ed.) , *Touch in early Development* (pp.53-63) . New Jersey: Laurence Erlbaum.
- Winnicott, D. W. 1965. *The relationship of the mother to her baby at the beginning*,

Chapter 2. In The family and individual development (pp.15-20) . London: Tavistock Publications.

- 厚生労働省 (2018), 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について (第 14 次報告) 及び児童相談所での児童虐待相談対応件数, 報道発表資料
- 厚生労働省 (2019), 子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について (第 15 次報告) 平成 30 年度の児童相談所での児童虐待相談対応件数及び「通告受理後 48 時間以内の安全確認ルール」の実施状況の緊急点検の結果, 報道発表資料
- 麻生典子・岩立志津夫 (2006) . 0~1 歳の乳児期を想定した母親のタッチングにおける複数の養育場面間の相違: 回顧的方法を用いて. 小児保健研究, 65, 488-497.
- 小野塚 愛・桂田 恵美子 (2019). 大学生の愛着スタイルと被接触好悪感の関連性. 関西学院大学心理科学研究, 45, 31-35
- 川名好裕 (2008). 対人関係における身体接触の位置づけ. 明治大学心理社会学研究, 3, 59-66
- 會田理沙, 大河原美以 (2014). 児童虐待の背景にある被害的認知と世代間連鎖—実母からの負情動・身体感覚否定経験が子育て困難に及ぼす影響—. 東京学芸大学紀要. 65, 87-96
- 久保田まり (2013). 愛着の“つまずき”及び児童虐待への予防的支援—Healthy Families America プログラムを中心に—. 東洋英和女学院大学 人文・社会科学論集. 31, 47-61
- 清水裕士 (2016) . フリーの統計分析ソフト HAD: 機能の紹介と統計学習・教育, 研究実践における利用方法の提案. メディア・情報・コミュニケーション研究, 1, 59-73.
- 住田正樹・中田周作 (1999). 父親の育児態度と母親の育児不安. 九州大学大学院教育学コース院生論文集, 2, 19-38.
- 武田江里子, 小林康江, 加藤千晶 (2012). 母親の子どもに対する「愛着-養育バランス」尺度の開発 第 1 報 -尺度としての信頼性と妥当性-. 日本看護科学会誌, 32 (1) , 1\_30-1\_39
- 武田江里子, 小林康江, 加藤千晶 (2012). 母親の子どもに対する「愛着-養育バランス」尺度の開発 第 2 報 -尺度としての信頼性と妥当性-. 日本看護科学会誌, 32 (4) , 4\_22-4\_31
- 武田江里子, 小林康江, 弓削美鈴 (2016). 乳幼児を子育て中の母親から子どもへの「愛着-養育バランス」に影響する内的要因 -母親の被養育体験と内的作業モデルの影響-. 日本看護科学会誌, 36, 71-79.
- 田口 (袴田) 理恵, 河原智江, 西留美子 (2014). 子どもの反抗的行動に対する認知を媒介とする母親の社会的健康と虐待的行為の関係—被害的認知と否定的認知に関する検討—. 小児保健研究. 73, 547-554
- 中尾達馬・加藤和生 (2004). 一般他者を想定した愛着スタイル尺度の信頼性と妥当性の検討. 九州大学心理学研究, 5, 19-27
- 中谷奈美子, 中谷素之 (2006). 母親の被害的認知が虐待的行為に及ぼす影響. 発達心理学研究. 17, 148-158
- 西條 剛央・根ヶ山 光一 (2001). 母子の「抱き」における母親の抱き方と乳幼児の「抱

- かれ行動」の発達:「姿勢」との関連を中心に. 小児保健研究, 60 (1), 82-90.
- 水本 篤・竹内 理 (2008). 研究論文における効果量誤報告誤ために—基礎的概念と注意点—. 関西英語教育学会紀要 英語教育研究. 31, 57-66.
- 茂木寿美子 (2003). 幼児期における身体接触と自立の時期的区分. 日本保育学会研究論文集. 56, 192-193
- 吉田弘道 (2012). 育児不安研究の現状と課題. 専修人間科学論集 心理学篇, 2 (1), 1-8
- 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎, 他 (2013). 育児不安尺度の作成に関する研究 その 1—4・5 か月児, および, 10・11 か月児の母親用モデル—. 小児保健研究, 72 (6), 680-689.
- 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎, 他 (2013). 育児不安尺度の作成に関する研究 その 2—1歳半児, および, 2歳児の母親用モデル—. 小児保健研究, 72 (6), 690-698.
- 吉田弘道, 山中龍宏, 巷野悟郎, 他 (2013). 育児不安尺度の作成に関する研究 その 3—3歳児, および, 4歳児の母親用モデル—. 小児保健研究, 72 (6), 780-788.
- 渡辺久子 (2005). 『抱きしめてあげて』 太陽出版.